

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念がある。地域との関わり、医療との連携をとり、実践につなげている。	平成26年度に再作成した「地域の中で、その人のペースで、その人らしく暮らせるように支援する」「医療と連携し、安心して生活ができるように支援する」という二つの運営理念を継続し、事務所に掲示し来訪者に分かり易くしており、また、パンフレットにも掲載している。職員は理念の把握をしているが、定例会議などで随時ふれ初心に戻っている。本人や家族には入居時に説明し、理解をしていただけるように丁寧に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事(どんど焼き)に参加している。清明小学校との交流があるが、現在感染症対策のため、行き来できていない状況。	母体の病院とともに法人として自治会に加入し、会費を納め、例年であればふれあい広場などの自治会行事にも利用者と参加しているが新型コロナの影響を受け自粛せざるを得なくなっている。そうした中でも冬季には周辺の除雪に協力している。新型コロナ前には園芸ボランティアを始めとした多くのボランティアの来訪があったが今は中止となっている。ボランティアサークルからも連絡があり、コロナ収束後には例年通り関わりを持っていただけるようにしたいという意向でいる。また、小学校のボランティア委員会との交流や中学生の職場体験、サマーチャレンジ、初任者研修の実習生の受け入れなども現在中止となっているがホームとしても再開の日を心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生、ボランティアを受け入れている。自治会長、民生委員を通じて相談窓口の紹介をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当課職員、自治会長、民生委員に参加していただいている。年に何回かは消防署職員に参加していただいている。サービスの向上に活かしている。現在感染症対策のため、書面での開催となっている。	例年であれば、年6回、利用者家族、自治会長、民生委員、市職員、消防職員、ホーム職員が参加して、活動報告や行事報告、事故報告などをし情報交換しているが、現在、新型コロナの影響を受け、書面での開催となっている。職員が委員あてに議案書等を直接届け、後日、意見・助言等を書面や電話等で受け付けている。コロナの感染レベルによっては集合しての会議を再開したいという意向でいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で情報交換している。市へ問い合わせを行い連絡をとっている。介護相談員を受け入れている。	市の関係部署とはホームの空き情報を知らせたり、介護保険制度改定に伴う相談や事故報告などを行っている。介護認定更新については市の決りで介護支援専門員の資格のある管理者が調査可能となっているが、市の調査員がホームへ来訪し、職員が対応している。また、家族からの依頼があれば、申請の代行も行っている。例年であれば介護相談員が定期的に来訪し、利用者とのかわりの中で得た情報を随時職員へ伝えてくれたりしたが、コロナの影響で現在は休止となっており、再開が待たれるところとなっている。	

医療法人健教会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会、研修で理解を深めている。玄関ロック式になっているが、出掛けたい時は一緒に外出している。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催したり、虐待・身体拘束に関する内部研修を行うことにより、職員の意識を高めている。家族に了解を得た上で転倒・転落を防ぐためにセンサーを使用しているが、随時アセスメントしながらセンサーの撤去に向けて検討を重ねている。また、夜間帯などは巡視回数を増やし、事故防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で理解を深めている。発見した場合の対応について周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用が必要な方には、制度の説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取り、説明を行い理解していただいている。介護報酬、利用料に改定があった場合は、個々に説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口掲示している。定期的にお知らせして周知を図っている。入居者からは日常生活の中で、御家族からは来所時、連絡の際に意見要望をお聞きしている。法人で検討する体制がある。	自分の意見や要望を表出できる方は若干名で、他の大半の表出できない方については生活歴や表情、仕草から推察するようにしている。12月までは新型コロナの影響で面会できなかったが、それ以降、予約制でワクチン接種済みの家族に限り面会時間を10分とし、2週間の期間を置き、月2回まで認めている。面会の際には利用者の様子を伝えたり、要望を聴いて運営に生かすようにしている。また毎月発行している「北大手通信」とともに、担当職員が1ヶ月の「生活面」「身体状況」「医療面」等の様子を記入し知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見提案を聞く機会を設けている。	毎日・夕方に職員ミーティングを開き、業務連絡や利用者の様子などを報告し合い実情に合った運営をしている。また、半期ごとに全職員での会議を持ち、ホームとしての方向性を検討していく予定である。また、管理者による職員に対しての個人面談もいままですぐ実施されてきたが、法人の介護サービス5事業所として統一した人事考課制度を導入しようという動きがあり、個人面談も定期的に行われる予定となっている。法人としてストレスチェックも行っており、心身の健康にも留意されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則がある。法人に社会保険労務士がおり、労務管理をしている。法人として資格の取得、研修参加について支援がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加できる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県宅老所グループホーム連絡会に参加しており、相互評価で訪問、交流行っている。今年度は休止。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から困っていることや要望を聞いて、求めていることを把握できるようにしている。関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後にこれまでの経緯や困っていることを聞いている。来所時や電話で連絡をとり、様子を伝えたり要望を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居ができない場合は、相談時の状況に応じて、他のサービスを紹介する等対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのできる事、好まれる事を行いながら、生活していただけるように、それぞれ対応をしている。行ってもらった事には感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調や生活の様子を来所時や電話でお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、どなたでも自由に面会していただける事をお伝えしている。入居者、家族から話を聞き、関係が把握できるように努めている。現在は面会制限あり。	例年であれば知人・友人や孫などの来訪が随時あり、利用者の誕生日には家族と外食に出かける方もいたが、新型コロナ禍ということで中止をしていた。今年12月以降、コロナ感染が落ち着いてきたことからキーパーソンが同行し、予約制でワクチン接種済みの方に限り面会時間を10分として再開を始めた。例年であれば、自治会主催のどんど焼きや餅つきなど馴染みの年間行事にも参加していたが、新型コロナ禍ということで自粛しており、ホーム内で豆まきや七夕など昔ながらの行事への参加を促し季節のメリハリをつけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係、身体状況を把握して、食堂の席を決めたり、それぞれが関わり合い楽しく過ごせるように配慮している。状況に応じて職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院、他の施設に移る場合は情報提供を行っている。状況の変化に合わせて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉、表情から思いや希望をくみ取っている。意思表示が少なくなってきた方は、以前の好みから判断している。また御家族等関係者の皆さんからお聞きして把握に努めている。	自分の思いや意向をはっきり示すことのできる方は若干名で、言葉での意思表示が難しい場合は、選択肢を提示したり、表情や仕草、生活歴などから推し測り本人本位に検討している。ホームとして、在宅時のケアマネージャーからの情報に合わせ、利用者が馴染んでいた店で食材を買ったりして可能な範囲で好きなこと、できることなどを引き出そうとしている。また、利用者のつぶやきや職員の気づきは、日常の記録に残すと共に申し送りや定例会議で情報を共有し、利用者の生活歴から決めつけるのではなく、新しい発見を得ることに着目し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービスがあれば、情報提供をしてもらっている。御家族から話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで一人ひとりの様子を把握し、過ごし方に配慮をしている。それぞれにあった生活ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族と話し合い意見を反映し、より良く過ごすことができるようにしている。	利用者の担当制をとっており、ケアカンファレンスの際に担当が中心となって意見を出している。介護計画の長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月に設定し、計画作成担当者が3ヶ月ごとに見直しをし、新型コロナ禍ということもあり家族宛てに計画書を送付し押印後返信をいただいている。またモニタリングは3ヶ月に1度行い、状態に変化があった場合には、その都度見直しをしている。今年度8月から日常の記録をタブレットで入力し効率化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調や生活の様子を記録し、申し送りで情報を共有している。ケア内容を検討して、計画の見直しをしている。		

医療法人健教会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況希望に合わせて、通院、外出支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事に参加したり、清明小学校と交流している。昨年で園芸福祉グリーンディアの活動が解散に伴って終了となったが、メンバーだった方のハーモニカボランティア来所を予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医療機関で定期的に診察を受けている。 他院にかかる場合は、職員、家族が付き添い、情報提供を行い支援している。	契約時に利用前のかかりつけ医を継続できることを説明しているが、母体の病院が協力医で24時間連絡が取れ、また、随時受診ができるため、協力医に変更する方が多い。協力医による月2回の往診があり、訪問看護師も定期的に訪れ24時間オンコールで協力を得られている。同じ法人内での情報の共有や連携が図られており、緊急マニュアルもあるため、利用者や家族の安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関から看護師の訪問が定期的にある。バイタルチェック行ってもらい、気が付いた事を助言してもらっている。体調に変化があった時は主治医に繋いでもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供をしている。退院時はサマリーをもらい話を聞いて情報収集をしている。状態を把握して、退院後の生活がスムーズに行くようにしている。主治医と連携して速やかに退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人家族の意向を踏まえて主治医と連携をとり、状態が変化しても安心して生活してもらえるようにしている。状態の変化に応じて、家族、主治医、職員で相談支援している。	入居の際に重度化に関する指針を基に説明し、重度化した場合には母体の病院で適切な医療を受けられることも説明している。重度化した際にホームでの看取りは可能であることを伝えた上で家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合いを重ね、可能な限りホームで過ごし、最終的に食事摂取ができなくなった時に入院でという選択をされる家族が多いという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間主治医と連絡がとれる体制がある。緊急時の対応マニュアルがある。病院内にAEDが設置されている。救急救命法の研修を定期的受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策計画がある。年2回避難訓練、消防設備点検をしている。併設施設からの応援体制がある。業者からスプリンクラー、火災通報装置の取扱い方について説明を受けて周知を図っている。	年2回、夜間の火災想定などで消防訓練や消防設備点検を実施している。防災マニュアルや病院との応援体制が確立されており、毎年消防設備の取り扱いについて業者から説明を受けて、万が一に備えている。また、万が一に備え折り畳みタンカやヘルメットを玄関に備え、備蓄はホームで最低限の食料品などを保管し、他の多くの備蓄品は隣接の病院で保管している。隣接の病院始め、法人としてのBCP計画(事業継続計画)について講師を招き研修を行い、管理者が中心となり、ほぼ策定が終了しているという。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、誇りやプライバシーを損ねないように対応をしている。自己決定しやすい言葉かけに努めている。	利用者への声掛けは姓か名前に「さん」付けとし、本人が認識できるような選択をしている。排泄時や入浴時は基本的に同性で対応している。職員の利用者に対する言葉かけで気になる時は、管理者が定例会議やその場で指摘するようにしている。また、毎年度、利用者の尊重やプライバシー保護の研修も含めた年間研修計画を立てているが、新型コロナ禍の状況で中止となっている。コロナ収束後には職員の人権意識の向上を含めた研修も含め実施する予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる場面作りをしたり、本人に思い希望を聞くようにしている。意思表示しにくくなっている方には、表情や反応をみて判断をしている。それぞれに合わせて対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調や希望に合わせて、それぞれのペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理容師、御家族に、本人の希望によりカットしてもらっている。居室から出てくる時、外出時は衣類等整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを把握し、それぞれに合わせて食事形態にしている。楽しい雰囲気作りをしている。準備、片付けできる方が限定されているが、一緒に行ってもらっている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、食材は法人から配達され、職員が利用者の好みや行事に合わせて、随時アレンジして調理している。利用者の自自由度は高く自分で摂取できる方が大半であるが、刻みムース状にするなど状態に応じて提供し見守りをしている。また新型コロナということもあり衛生面から利用者が調理に関わることは少なくなったが、できる範囲で下膳や茶碗拭きなどを行っている。プランターやミニ菜園で夏野菜を育て、利用者と一緒に収穫し、食を楽しむ機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。1日の食量、水分量を記録把握している。摂取の少ない方には、好みの食べやすい物を提供したり、栄養補助食品を出したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態に合わせて声かけ、介助で行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれ排泄パターンを把握し、身体機能に合わせて介助をしている。トイレでの排泄を支援している。おむつ類も状態に合わせて、適切な物を使用している。	自立し布パンツを使用されている方が若干名おり、また、全介助の方も若干名で、他の方は一部介助で利用者の状態に応じてリハビリパンツやパットを使用している。それぞれの排泄パターンや表情、仕草などから推察し、トイレ誘導をしている。また排泄用品は家族の負担がないように配慮をし、セットで購入できるように相談しながら選択をさせていただいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の有無を把握している。体操をしたり身体を動かす機会をつくっている。野菜、乳製品を多く出している。便秘ぎみの方にはオリゴ糖摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の状態に合わせて、入浴の順番考慮している。拒否がある場合は、時間をずらしたり、翌日に声をかけて入浴してもらっている。	基本的に週2回見守りや介助で、午前と午後に分けて、ゆっくりと入浴できるようにしている。ホーム内で車イスを使用する方が増えており、リフト浴の設置が進められている。今まで利用者の身体状況に応じて、職員二人対応で入浴されていた方がおり、また、足浴・シャワー浴で対応する方もいる。更に、利用者の肌の状態により、ゆず湯や入浴剤を使用し季節を感じていただいたり、楽しんでいただける工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに日中活動を行えるように支援し、夜間眠れるようにしている。体調や疲れ具合をみて、居室で休む時間もとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに薬の説明書をファイルしている。錠剤が服用しにくい方には、主治医に相談して粉碎してもらい、服用しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活動が行えるように必要な物を用意している。散歩等外出したり、地域の行事、希望に応じて参加している。力を活かして家事を行ってもらっており、行ってもらった後は感謝の言葉を添えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて外出がし易いように車いす、車を使用している。外出外泊する場合は、連絡表をお渡しして、介助方法を説明している。	新型コロナ前の例年であれば日常的にホーム周辺や上田城址公園を散歩したり、近くのコンビニエンスストアに買い物へ出掛けたり、ベランダで外気浴をしていた。外出の際は、自力歩行と杖歩行の方がそれぞれ若干名ずつで、他の多くの利用者が車いすを必要としている。ホームとして花見などの年間外出計画を立てており、新型コロナ前は出掛けていたが、現在、自粛しており、早期の収束が待たれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状態に応じてお金を所持してもらうか検討している。預り金用意しており、預り金について入居時に説明して家族の同意を得ている。出納帳、領収証で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、いつでも電話したり、郵便物が出せるようにしている。電話は子機を使い、居室でゆっくり話をしてもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、日差しは空調、照明、カーテンで調節している。食堂には装飾品を飾り季節感を出している。居心地よく過ごせるようにしている。	コンパクトにまとめられた食堂には広い窓があり、採光も良く、ベランダ越しにミニ菜園が見え、季節を感じることができる。空調は床暖房とエアコンで管理され、寒さを感じることはない。またトイレは2ヶ所あり、1ヶ所は車いすでも利用できる広い造りとなっている。浴室は銭湯のような趣きがあり、2方向から介助のできる浴槽で、脱衣室は床暖房とヒーターを使用してヒートショック予防に努めている。利用者はお茶の後、体操やゲーム、歌などに興じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は入居者の相性や身体状況を考慮している。共用空間は食堂のみであるが、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後に家族と話をし、使い慣れた物を持ってきていただいている。居心地よく過ごしてもらえるように、写真等持ってきていただいている。入居者によっては物の少ない部屋もある。	8畳の広さがある居室には洗面台とベッドが備え付けられ、床暖房で空調管理をしている。入り口には表札と暖簾が掲げられ、家族との写真や遺影、位牌を置き、使い慣れたであろう三面鏡やテレビ、ラジオ、レクリエーションで作成した作品など飾られている居室があり、生活感を感じることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況の変化に応じて、居室等の環境整備を行っている。安全に動けるようにしている。		